

自 己 評 価 表

愛媛県立八幡浜高等学校 定時制
学 校 番 号 (34)

教育方針	1 校訓「勉学 礼儀 健康 融和 奉仕」を基調として、 <u>地域</u> 社会の形成者としての資質・能力を養う。 2 社会の変化に柔軟に対応し、自らの進路を切り拓く確かな学力を育成する。 3 個性を尊重し、国際的視野を持った心豊かな人間を育成する。 4 安全・安心で充実した教育環境のもと、社会で生きる力を育む。	重点目標	主体的に行動する生徒の育成 1 豊かな人間性の育成 2 健全な身体の育成 3 個性の伸長と自ら学ぶ力の育成
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	確かな学力の育成	生徒が主体的に学習できるよう指導方法を研究するとともに、興味・関心等の実態に即して教材の工夫・改善に努め、 <u>学校評価アンケート及び生徒による授業評価アンケート総平均で4.5以上を目指す。</u>	B	教員評価は5.0であり、生徒の実態に応じた教材の工夫・改善に努められているが、生徒による授業評価アンケート総平均は4.4であるため評価はBとした。学習意欲や内容の定着度に対する評価がやや低くなっている。	習熟度の低い生徒に対する基礎・基本を重視した授業を実践し、学習内容の定着を図るとともに意欲の向上を図る。
	言語能力の育成	各教科で言語活動の充実を図りながら主体的に取り組める授業を実践し、 <u>学校評価アンケートで該当項目の4.5以上を目指す。</u>	B	教員評価は4.7と主体的な学習活動が実践できている。生徒の評価は高いとは言えないが昨年の3.4から3.7と向上しているため評価はBとした。	コミュニケーションを図ることが難しい生徒もいるが、双方向の授業を実践し、生徒の発言機会が増える授業を実践する。
特別活動	学校行事、各種大会への積極的な参加	集団への所属感や連帯感を養いながら各種学校行事、定通制総合体育大会や生活体験発表大会に主体的に参加できる生徒の育成を目指す。	A	定通制総体7名出場、生徒生活体験発表南予大会最優秀・優秀賞、県大会優秀賞など学校行事等に主体的に参加する生徒が増えた。	次年度も様々な行事に継続して主体的に取り組み、達成感や成功体験を感じられるような行事運営に努めたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	5分前行動を定着させ、規則正しい学校生活を送らせる。	B	各教科担任の声掛け等により、次の授業の準備や切り替えのできる生徒が増えた。	5分前行動の指導を継続するとともに、規則正しく、落ち着いて授業を受けることのできる環境づくりに努めたい。
		挨拶を交わすことの必要性や大切さを理解させながら、場に応じた挨拶を定着させる。	B	学年が上がるごとに、日常的に挨拶や職員入室入室時に挨拶ができる生徒が増えてきている。	学校内での挨拶にとどまらず、学校外での挨拶や、入学時からの継続した挨拶指導をしていく。
	生徒理解の充実	年間6回以上の個人面接を行う。 A：6回以上 B：5回 C：4回 D：3回 E：2回以下	B	ホームルーム担任による学期ごとの面談を年5回以上実施することができた。	これまでの担任による指導を継続しながら教員間で情報を共有して、生徒理解に努めたい。
	交通安全指導の充実	交通ルールの遵守やマナーの向上により、事故0・違反0を目指す。	B	登校時におけるバイク通学生の接触事故が1件発生したが、それ以外は事故・違反0であった。	次年度も、非行防止教室や日々の交通安全指導を通して事故0・違反0に努める。
進路指導	生徒の適性と進路希望を踏まえた進路指導の充実	進路希望調査や学びの基礎診断（八定BASIC）により生徒理解を深める。 また、様々な進路情報を適宜提供し、進路への関心を高める。	B	八定BASICを実施し、活用した。 全学年に対してパンフレット配布等で情報提供を行い、進路への関心を高められた。	継続的な情報提供と、就職に関する指導・支援を強化する。
	生徒の希望進路の実現	保護者等やハローワークとの連携を深めながら、 <u>生徒の実態に応じて就労を支援する。</u> 進路に対する意識啓発を行い、進路決定100%を実現する。	B	就労率は7割で、前年よりも高い。進路補習やキャリア講演会を実施し、意識啓発や進路実現に向けての取組を行った。卒業予定者の進路については、保護者等と連携を図り、本人の希望に沿った進路実現に向けて取り組んだ。	就労への主体性を持たせる意識啓発を行う。 進路補習の方法を検討する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
人権・同和教育	人権意識の高揚	研修に積極的に参加し、得た情報を共有・活用して生徒の人権意識向上を図るとともに、自身の指導力向上に努める。	B	校内外の研修に積極的に参加し、得た情報を生徒への人権・同和教育に生かすことができた。校外研修の内容を職員全体へ還元する機会が少なかった。	教職員間で研修等で得た情報の共有を図る。授業やホームルーム活動の場面以外でも、生徒の人権意識を高められるように取組を行う。
	保健管理	健康意識の向上	B	毎日の自己の体調を記録することで健康への意識を向上させることができた。健康教育では八幡浜保健所の協力で、食育を中心に研修することができた。	引き続き、食や運動の重要性を理解させ、バランスのよい食事を摂取することが健康の保持増進につながることを理解させる。
安全管理	防災意識の向上と緊急時の対応	各学期の防災避難訓練を通して、緊急時の対応を周知徹底するとともに、定期的に防災関係の情報を提供する。	B	防災避難訓練を通して、緊急時の対応を周知徹底させることができた。	定期的に情報提供を行うとともに、災害に対する備えを徹底させる。AEDの講習会を通して、実践できる力を身に付けさせたい。
特別支援教育	校内研修会の実施	各種研修会報告で得た情報を全教員が共有して特別支援教育に対する理解を深め、実践力を高める。	B	各種研修会で得た情報を教職員間で共有し、特別支援教育に対する理解を深めることができた。	特別支援に関する実践力を高める研修の実施に努める。
	生徒の実態把握及び関係諸機関との連携	少人数のメリットを生かし、生徒一人ひとりの実態把握を早期に行う。関係諸機関と連携して生徒の実態に適した支援の実践に努める。	B	生徒の状況について教職員間で情報を共有し、連携して支援の実践に努めることができた。	関係諸機関との連携を図る。
研修	教職員の資質の向上	校内外の各種研修会に積極的に参加し、研修内容を教員間で共有する。ICT機器を積極的に用い、ICT活用能力の向上を図る。	B	全教員が各種研修に参加することができた。また、ICT機器の活用法を模索しながら、授業力の向上を図ることができた。	各種研修会等への参加を促し、全教員の資質の向上に努める。ICT機器を積極的に使用して、ICT機器を用いた指導力の向上を図る。
保護者等との連携	広報活動の充実	「八定だより」や学校ホームページを通じて、教育活動に関する情報を提供する。	B	毎月「八定だより」を発行し、随時ホームページを更新し、生徒の写真や取組に関する情報を提供することができた。	「八定だより」とホームページの内容を充実させ、教育活動に関する情報を随時提供できるよう努める。普段から保護者等との連絡を密にし、学校と家庭との連携強化に努める。また、学校行事等の連絡を可能な限り早く行い、保護者等が参加しやすい状況づくりに努める。
		普段から保護者等との情報交換に努める。また、保護者等懇談会や家庭訪問、学校行事等を通して学校と家庭の連携を図る。	B	家庭訪問や保護者等懇談会の実施だけでなく、普段から保護者等との連絡を密にし、学校と家庭との連携に努めた。また学校行事の案内を早めに行い、保護者等の参加を促すよう努めた。	
業務改善	適切な勤務時間と休暇取得による働きやすい職場づくり	休憩時間を確保したうえで教職員の勤務時間を守り、休暇をとりやすい環境をつくる。全教職員が年間7日以上休暇を取得し、心身のリフレッシュに努める。	A	休暇を取りやすい雰囲気を作り、全教職員が7日以上休暇を取得することができた。	長期休業中の休暇に加え、平日の時間休暇を取りやすい状況及び雰囲気づくりに努める。
	職場環境の整備	健康相談等を定期的に行い、業務の均等化や教職員の肉体的・精神的疲労の軽減を図る。職員室の整理整頓に努め、毎月1日の職員室清掃日を設ける。	B	互いに協力して業務を行うことができたが、職員室清掃を実施できない月があった。	年間行事において、職員室清掃日を予定しておく。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。